

【JGBA オフィシャルパートナー企業インタビューシリーズ】

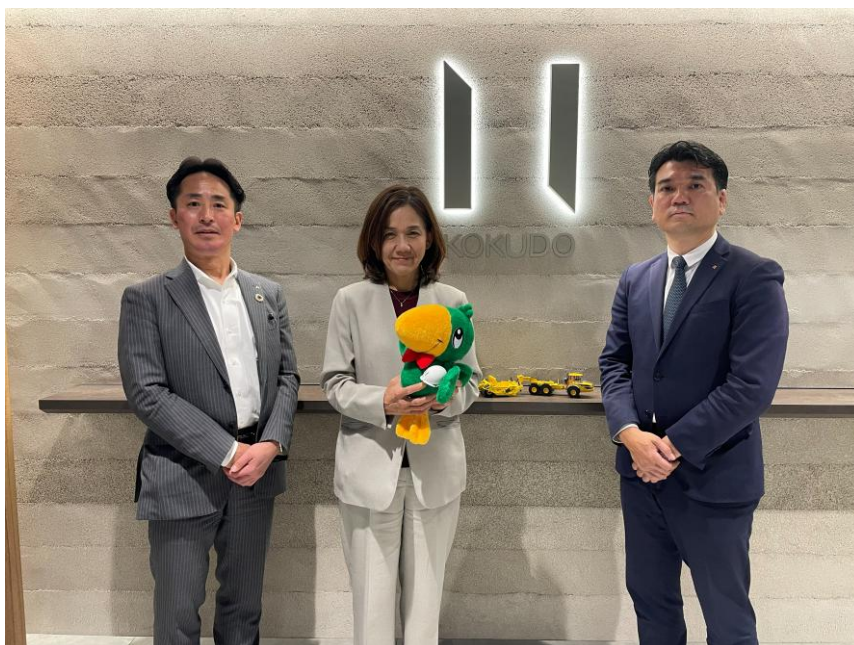
日本ゴールボール協会（JGBA）をさまざまな形で応援してくださっているオフィシャルパートナー企業の皆さまに、各社のお取り組みやご支援への思い、当協会への期待などを伺うインタビューシリーズです。

＜日本国土開発株式会社様＞ [取材日：2026 年 5 月 13 日]

総合建設企業である日本国土開発株式会社は 1951 年（昭和 26 年）に、戦後の荒廃した国土の復興を目的に創設されました。ブルドーザーなどの建設機械を活用した工事方式を取り入れ、新幹線や高速道路、ダムや空港などの社会基盤の整備や大規模住宅団地の建設などで日本の復興に貢献。近年はサステナビリティ経営を推進しながら、不動産開発や再生可能エネルギー事業などにも取り組み、幅広く企業活動を展開しています。

▼公式サイト: <https://www.n-kokudo.co.jp/>

2023 年 4 月からは当協会のシルバーパートナーとしてご支援をいただいています。今回は、同社の常務執行役員 CFO でサステナビリティ経営本部長の大西暁子さん、同本部戦略部長の今井淳さん、同本部戦略部広報担当課長の中西康仁さん、の 3 名にお話を伺いました。（以下、敬称略）



【写真左から、今井淳さん、大西暁子さん、中西康仁さん】

■パラアスリートを支援する理由

——日本国土開発株式会社様には主に、JBGA の選手を「アスリート雇用」という形で応援いただいています。2023 年 4 月に佐野優人選手が入社し、その後、永野陽希選手が、そして今年 4 月には鳥居陽生選手が入社。3 名とも現在、日本代表強化指定選手として活躍しています。

大西

はい。佐野さんと鳥居さんはサステナビリティ経営本部戦略部に、永野さんはサステナビリティ経営本部人事部採用グループに所属しています。出社は週 2 日程度で、練習や合宿、遠征などアスリート活動を優先した勤務形態です。

——御社にとってパラアスリートの雇用は佐野選手が初めてになりますか？

大西

いえ、2019 年に車いすバスケットボールの女子選手を雇用させていただいたのが最初になります。東京パラリンピック日本代表選手としても活躍後、活動拠点を变えるということで残念ながら退社されました。しかし、当社としてはパラスポーツの魅力を強く感じていたことから、引き続きパラアスリートを応援したいと思いました。そこで、パラアスリートの人材紹介サービス会社を通じて、佐野さんと巡り会いました。

——そもそもパラアスリートの支援を始められたのはどのような理由でしょうか？

以前からスポーツ支援には取り組んでいましたが、パラスポーツにはまた別の魅力を感じたからです。障がいがあっても競技に対して真摯に向き合い努力する姿には胸が熱くなりますし、社員にも好影響のあると思いました。実際、車いすバスケットボール選手を雇用した際にもパラスポーツとしての面白さもそうですし、チーム競技の一員として献身的な選手の姿にチームプレーの大切さなども改めて学びました。

——そこで、同じチーム競技であるゴールボールの選手を選んでいただいたのでしょうか？

大西

いえ、ご縁をいただいた佐野くんが取り組んでいる競技がたまたまゴールボールだったというのが正直なところ。ただ、佐野くんの活動を通してゴールボールというスポーツを知っていくうちに、その面白さに魅了されました。

ゴールボールは「静寂の格闘技」と言われていますね。私も観戦しましたが、静かな環境下での激しい競技だからこそ、躍動感や緊張感もより強く感じられると思いました。社員も同様にゴールボールの魅力を感じていると思います。

——パラスポーツ支援による、御社への好影響について、お聞かせください。

中西

車いすバスケットボール選手は2021年に東京パラリンピックに出場して6位という結果を残し、社内は大いに盛り上がりました。残念ながらコロナ禍だったので、大会前の壮行会も開けず、会場観戦もありませんでしたが、「みんなで一緒に応援しよう」とウェブ会議システムで壮行会を社内に生中継したところ、とても盛り上がったんですね。コロナ禍という閉塞感の中で必死に応援したり、大会後に報告会を開いたりしたことで、社員の一体感もより強まりました。

——佐野選手と永野選手の入社後、2024年にはパリパラリンピックが開かれ、ゴールボール日本男子は初の金メダルを獲得しました。やはり、皆さんで応援いただき、盛り上がっていただいたでしょうか。

大西

もちろんです。社員皆で応援していましたし、すごい活躍で、金メダルを持ち帰ってきてくれて、本当に嬉しかったです。また、当社エントランスに「金メダル獲得」といった横断幕を掲げたところ、来客者からも反応があり、誇らしかったです。

中西

佐野くんは代表選手として試合で大活躍しましたが、実は永野くんもNHK中継番組の解説者として頑張ってくれました。

——佐野選手は延長戦となった決勝戦で金メダルを決める得点を挙げましたし、永野選手のテレビ解説もとても好評でした。

中西

はい。佐野くんの活躍も素晴らしかったですが、永野くんには代表入りできなかった悔しさもあっただろう中で、解説者として分かりやすく試合を伝えることで日本チームのために汗をかいていました。だから、報告会では佐野くんだけでなく、永野くんの「名解説」や「名言」を集めて紹介するなど、それぞれの奮闘ぶりを紹介しました。いい報告会になりました。



——今年入社の鳥居選手もパリ大会でパラリンピック初出場。次のロサンゼルス大会に向けて、3選手のさらなる活躍が期待されます。ゴールボール選手たちをご支援いただいてから、御社内での手応えや変化などがありますか？

大西

2024 年後半に社内にゴールボールチームができました。パリパラリンピック後の報告会で選手たちから、「社内チームを作ろう」と声が上がったことがきっかけです。チラシを作ってメンバーを募ったところ、コーチ役の選手たちをはじめ、現在は約 10 人の有志がメンバー登録しています。私も一応、その一人ですが、部署を超えたコミュニケーションが活発化したり、一体感も高まったり、とてもいい活動だと思っています。今年から JGBA にもチーム登録させていただきました。

中西

佐野くんたちは選手活動が忙しいですし、練習できる体育館の確保問題もあり、皆が集まって定期的に練習するのはなかなか難しいです。でも、なんとか頑張って、いつか大会にも出場したいですね。

——実際にゴールボールを体験されて、いかがですか？

大西

練習に参加しましたが、本当に全然見えない。「音を頼りに」と言われても、耳の感覚が研ぎ澄まされていないので、もうドキドキだし、難しいし…。改めて、選手たちに尊敬の念を抱きました。

——ゴールボールコーチの他、選手たちは社内で、どのような業務に関わっていますか？

大西

例えば、佐野くんには広報活動の一環として、全国の小学校に出向いて講演会やゴールボール体験会などを行ってもらっています。障がいへの理解を深めてもらったり、児童自身が自分自身を見つめ直したりする機会となることを目的としています。

中西

当社の社名ロゴが入ったTシャツを着て会社の話も織り交ぜつつ、佐野くん自身の半生を語ってもらうのですが、視覚障がいを乗り越え、どうゴールボールと向き合い、挑んでいるのか、そして、スポーツの力などについて熱く語ってくれます。児童も熱心に聞いてくれています。また、「ゴールボールはカッコいいスポーツなんだ」と佐野くんから聞いた直後に、実際に体験してもらいます。楽しんでいるようで、やりがいを感じます。

■ゴールボールの認知度アップへ

——業務を通じて、ゴールボールの普及活動にも貢献しているのですね。

中西

実は、活動の場はさらに広がってきています。当社は建設会社なので協力企業も多く、そうした企業で構成される「安全協会」というのが全国各地にあります。その一つ、九州の安全協力会に佐野くんが招かれたのです。6月下旬に実施予定ですが、講演会に加え、アイマスク体験や音を頼りにしたアクティビティなども考えています。建設業ですからバリアフリーの感覚も必要ですし、目に不自由な人の思いを体験し、考える機会も提供できればと考えています。

今井

パリパラリンピックでの金メダル獲得のニュースは、建設業界紙に掲載され、話題になりました。ゴールボールは建設業界内に少しずつ広がっていると思っています。

——とても心強いお話です。では、ゴールボール選手を雇用されたことで、御社の社業にプラスになった点などありますか？

大西

具体的な事例はまだありませんが、今のお話を聞いていて、選手たちにバリアフリーのアドバイザー的な立場を担ってもらうのもよいのではと思いました。実際に図面や3D キャドなどを見てもらい、気づいた点などを指摘してもらえたら、参考になりそうです。

——パラアスリート雇用の新たな広がりも生まれそうで、今後が楽しみです。では、JBGA との関係をさらに深めていくために、今後のご計画などがありますか？

大西

ステークホルダーエンゲージメントとして最重要課題と考えているのが「次世代」、つまり若者や子どもたちへの働きかけです。例えば、ゴールボールを通じて日常生活ではなかなかできないことを体験する機会を提供していきたいと考えています。ぜひ、そんな機会の創出と一緒にやっていただければありがたいです。

——「次世代」は私たち JBGA としても大きな課題です。代表強化面から考えても、次世代選手の発掘や強化は欠かせませんが、強化費は限られており、合宿もトップチームが中心にならざるをえません。何とかしなければと、私たちも今、必死に取り組んでいるところです。ぜひ、同じ目線で協力し合っていければ、ありがたいです。他に、JBGA へのご要望があれば、お聞かせください。

大西

やはり、ゴールボールというスポーツの認知度を上げていくことでしょうか。メディアで目にする機会も少ないですし、話題に出しても、ゴールボールを知らない人もまだ多くて……。支援企業の一つとして認知度向上については課題だと感じています。

——ご指摘、ありがとうございます。JGBA としても、知られていないからこそ、さまざまな競技の魅力を掘り起こし広めていくことに今、取り組んでいます。先ほど「バリアフリーアドバイザー」のアイデアも出しましたが、一般企業の活動でも活かせる要素があることもアピールしていきたいと思っています。

大西

3 選手を抱えている当社として、選手にはより長く輝いてほしいと願っています。スポーツですから、選手生命のある中で戦っているとも思います。悔いのないようパフォーマンスができるように、私たちもサポートしていきますし、JGBA も一体となってサポートいただければ嬉しいです。また、他のスポンサー企業とも連携しながら、企業側からもゴールボールの魅力を発信していければと思います。

中西

企業連携といえば、これまで JBGA のスポンサー会に何回か出席しましたが、情報交換という意味でも、とても有意義でした。例えば、実際に選手を雇用されている企業と、障がい者雇用や選手サポートに関するお話ができ、とても参考になりました。

今年は参加できませんでしたが、「パートナー企業交流大会」(*)にも参加したいと思っています。(※: パートナー企業対象のゴールボール大会。2026 年度は 2 月 7 日に実施済み)。永野くんからも「すごく盛り上がった」と聞いています。こうしたイベントは今後もぜひ、継続いただきたいです。

——ゴールボール支援を起点にした業界を越えての連携機会ですね。それは、JBGA としても嬉しいお話です。

中西

例えば、スポンサー企業の中にはゴールボールだけでなく、さまざまなスポーツを応援されている会社さんもおられて、参考になりました。実は、当社には現在、ろう野球の選手兼日本代表監督(野呂大樹選手)も勤務しています。今年 11 月、日本で初となる、「第 2 回世界ろう野球大会」が開催予定で、当社としても応援しています。第 1 回は台湾で行われ、日本は初代王者に輝きました。今回、日本は連覇を目指しています。

——その他に、PR されたいお取り組みがあれば、ぜひお願いします。

大西

では、次世代に向けた当社の新たな取り組みをご紹介します。当社では宮城県仙台市の泉ヶ岳中腹に約 9.5 ヘクタールの広大な自然に開発した、「IZUMI PEAK BASE(泉ピークベース)」というアウトドアリゾートを運営しています。仙台市街地から車で約 40 分に位置し、コテージやキャンプサイト、眺望のよい露天風呂もある温浴施設やレストランなどを備えています。



▼IZUMI PEAK BASE(泉ピークベース)

<https://peak-base.com/>

この施設で 2022 年から、子どもたちの支援に取り組む認定 NPO 法人「キッズドア」がキャンプイベントを主催していて、三井住友ファイナンス & リース株式会社 (SMFL) 様と共に支援を行っています。

中西

このイベントは、「キャンプ体験を寄付する」というもので、今年 3 月には第 3 回を実施しました。回によって異なりますが、30～60 人ほどの子どもたちに参加いただいています。

——それでは最後に、ご所属の 3 人をはじめ、ゴールボールに挑む選手たちに応援のメッセージをお願いします。

大西

日頃、3 人の姿を見ていて感じますが、体づくりなど日々の努力と挑戦に、心から敬意を表したいです。3 人のプレーが社員や家族にまで勇気と感動を与えてくれますし、次のロサンゼルスパラリンピックを目指して、日本チーム皆さんに、ぜひ頑張ってくださいたいです。

中西

社員一同、これからも応援していきます。

今井

日本国土開発として障がい者雇用にも力を入れていますし、ゴールボールの認知度アップにも貢献していきたいです。

——力強いエールをありがとうございます。これからも厚いご支援をよろしくお願いします。